

氏名(本籍)	小口 貴久(長野県)
学位の種類	博士(コーチング学)
学位記番号	甲第96号
学位授与年月日	令和3年3月15日
学位授与の要件	文部科学省令学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	男子スケルトン選手のスタート動作の改善に関する研究：一流選手のスタート動作の分析と即時フィードバックの効果
審査員	主査 日本体育大学 教授 阿江 通良 副査 日本体育大学 教授 杉田 正明 副査 日本体育大学 教授 伊藤 雅充

《論文審査結果の要旨》

本研究は、公式国際競技会における世界一流スケルトン男子選手(26名)のスタート動作を3次元動作分析して得られた資料から、スタートタイムとゴールタイムの関係、疾走速度、ピッチとストライドの変化を明らかにするとともに、得られた知見に基づいたスタート動作の改善をねらいとする即時フィードバックの効果を検証することを主な目的としたものである。

その結果、1) スタートタイムを短縮させることがスケルトンのパフォーマンス向上に有効であり、同側型のスタート技術でそりを力強く前に押し出しながら大きなステップ長で疾走することにより、スタートブロックから短い距離で大きなそり速度を獲得できること、2) 世界一流選手は素早い前方への腿上げによる脚の振り出しと下腿の前方への振り出しを行うスイング動作と、接地後の支持脚下腿の素早い前方回転に続く支持脚大腿と足の前方回転(股関節と足関節の伸展)によるキック動作により疾走速度を高めていること、3) 平均動作モデルを用いた即時フィードバックトレーニングでは、動作パターンとその留意点を具体的に事前に示すことが効果的であり、選手は自身の動きの意識に加えて、他者の感覚や動きのイメージを取り入れる試みもみられるようになることなどを明らかにした。

審査会では、スタートタイムから滑走技術の評価が可能か、体力的要因の関与についての説明、1時間のトレーニングで明確なスピードの改善が見られなかったが、動作の改善が見られた原因の説明、動作分析の対象となった選手におけるスタートタイムとスタート動作の関係の詳細な説明、上肢動作の検討の有無、即時フィードバックトレーニングに女子選手を参加させた理由の説明などが求められたが、小口氏はデータや経験に基づいて可能な範囲で適切に説明を行った。また、審査会で用いた即時フィードバックトレーニングの説明図を論文に追加すべきとの指摘があった。このように、審査委員からは今後の発展に資する示唆や要望はあったものの、提出した論文の構成や内容などについては高く評価された。

以上、審査の結果、申請者は博士（コーチング学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

《最終試験結果》

合格 ・ 不合格

令和3年1月18日